

日本脳炎予防接種を希望される保護者の皆さんへ

日本脳炎の予防接種を接種される前に、必ずこの説明書をお読みください。

* 日本脳炎について

Q1 日本脳炎とは、どのような病気ですか？

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になることがあります。ヒトからヒトへの感染はありません。

Q2 日本脳炎の症状はどのようなものですか？

日本脳炎ウイルスに感染した人のうち100人～1,000人に1人が脳炎等を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の致命率は約20～40%ですが、治った後に神経の後遺症を残す人が多くいます。

Q3 日本脳炎の患者数は、国内でどのくらい発生していますか？

国内での患者発生は西日本地域が中心ですが、日本脳炎ウイルスは西日本を中心として日本全体に分布しています。飼育されるブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月頃まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。以前は、小児、学童に多く発生していましたが、予防接種の普及、環境の変化などで患者数は減少しました。最近では高齢者を中心に患者が発生していますが、平成27(2015)年には10か月児の日本脳炎確定例が千葉県から報告されています。また、平成28(2016)年は、高齢者を中心に11人の報告がありました。報告数が年間10人を超えたのは、平成4(1992)年以降で初めてです。

Q4 日本脳炎ワクチンとはどんなワクチンですか？

現在国内で使用されている乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞という細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し(不活化)、精製したものです。

Q5 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンを接種することによって、どのような副反応が起こりますか？

現在使用されている乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの添付文書によると、本剤の臨床試験において、生後6月以上90月未満の小児123例中49例(39.8%)に副反応が認められ、その主なものは発熱(18.7%)、咳嗽(11.4%)、鼻漏(9.8%)、注射部位紅斑(8.9%)であり、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられたとされています。

なお、ショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応の発生も否定はできません。

裏面もご覧ください

※予防接種による健康被害救済制度について

○定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

○健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障がい治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※接種スケジュールについて

第1期:生後6か月～7歳6か月になる前日・・・計3回接種

(1期初回) 6～28日の間隔で2回接種・・・(標準的な接種年齢は3歳)

(1期追加) 2回目の接種から約1年後に1回接種・・・(標準的な接種年齢は4歳)

第2期:9歳～13歳の誕生日の前日・・・1回接種(標準的な接種年齢は9歳)

日本脳炎予防接種の特例措置について

<対象者>

平成19年4月1日までに生まれた20歳未満の方

1期2期の接種が終了していない方は残り回数を接種することができます。

○問い合わせ:飯塚市 健幸保健課 感染症対策室

(電話)0948-96-8615 (FAX) 0948-25-8994

*住民票のある市町村にお問い合わせください。